

領域6 インフォーマルミーティング 議事録

2024/3/20(水) オンライン 18:00～19:00

記録者：小林未知数

参加者：枝川，白濱，出村，橋爪，坂口，小林他

0. 全体説明・イントロダクション (出村)

1. 委員について (出村)

- ・次期領域代表，副代表の確認・承認があった
 - 次期 領域代表 (2024年4月～2025年3月)
白濱 圭也 (超低温，慶応大理工学部)
 - 次期 領域副代表 (2024年4月～2025年3月)
松田和博 (液体金属，熊本大学)
- ・次期運営委員の確認があった
 - 坂口 佳史 (液体金属，CROSS，2023年10月～2024年9月)
 - 小林 未知数 (超低温，高知工大，2023年10月～2024年9月)
 - 矢野 力三 (超伝導・密度波，名古屋大，2024年4月～2025年3月)
 - 関 岳人 (準結晶，東大，2024年4月～2025年3月)
- ・次々期運営委員の推薦・承認があった
 - 次々期 領域運営委員(2024年 10 月 ～ 2025年 9 月)について
現運営委員から以下二名の推薦
 - 液体金属：北村光 (京都大学)
 - 超低温：谷口淳子 (電気通信大学)

特に異論はなく承認された

2. 日本物理学会若手奨励賞 (領域6) について (出村)

第18回 (2024年) 受賞者が確認された

- ・受賞者は以下の通り
 - 小森 祥央 (名古屋大学)
 - 前垣内 瞬 (日立製作所)

次回 (第19回) についても募集・推薦中であることが示された

2. 第78回年次大会の学生優秀発表賞について (出村)

題78回年次大会 (2023年) の学生優秀発表賞の受賞者が確認された。

- ・学生優秀発表賞受賞者は以下の通り

液体金属分野	佐野 汰知
準結晶分野	野末 悟郎
超低温分野	浅川 研太
超伝導・密度波分野	舟見 優, 峯 明史, 千葉 尋斗

また、学生優秀発表賞についての審査要領が確認された。

3. 領域委員会報告 (枝川)

● 春季大会(2024年) 企画提案の採択として物性領域プログラム小委員会採択結果についての報告がなされた

招待講演：6件採択, 0件不採択

企画講演：3件採択, 0件不採択

チュートリアル：5件採択, 0件不採択

シンポジウム(一般)：9件採択(条件付含む), 0件不採択

シンポジウム(共催)：2件採択, 0件不採択

● 大会の現地・オンライン交互開催について (領域3からの議題提案)

- ポスターセッションがオンラインの場合はディスカッションを活性化できるような工夫がほしい。
- オンラインだと他の研究者と知り合う機会が減るのでは。
- 多少の費用がかかってもポスターセッションに特化したツール導入を期待する。
- できるだけ対面開催を希望する意見もある一方で、オンライン開催のメリットも色々挙げられた。
- 2021年に会員向けにアンケートをとったが、改めてアンケートを実施して今後の参考にしたい (時期は未定)。

4. 臨時領域委員会報告 (枝川)

以下の2点の議題が報告された

● 計算物理領域の施行について

- 物理学の全領域を横断して「計算」に関連する研究を扱う。
- 理事会による提案することの懸念があった。
- その後、すでに設立していた「計算物理領域準備会」の提案とした。
- 新領域設定の手順 (旧：2018) から手順 (新：2023) への改定。具体的には研究対象を横断する主題による領域設定を認める (領域の新設に柔

軟性を持たせる方針)。ただし、十分な数(100件以上)の一般講演が見込まれること。

- 具体的な手順については細かいので割愛する。
- 当面は年次大会のみ。領域名は「計算物理」。「高性能計算」、「計算アルゴリズム」、「データ駆動科学」の3つのセッション。
- バッティングルールは適用しない。計算物理と既存領域のどちらで講演するかは講演者が決める。既存領域の運営委員の負担を増やさない。
- 関連する領域全てとの合同セッションとし、他領域とのセッションの重複は特段考慮しない。計算物理領域だけでなく、既存領域の講演としてもカウントする(既存領域の講演数の減少への懸念に対する措置)。
- 合同セッションを希望する領域の申告は必要としない。
- これまでの経緯と今後のスケジュールの確認。最速で2025年9月の年次大会から新領域を試行(試行は3年間)。

意見・質問

- 計算物理を含めた合同セッションになった場合の発表件数はどう数えるのか?全体で10件ある合同セッションに領域6の発表が1つしかなかったとしても10とするのか?
- 設立自体は反対ではないが、番号がついている領域(もともとは分科)と違って、(特別に?)名前を認めるというのは承服できない。

この段階で施行に対する強い反対意見は出なかった。

● サポートレターの発出について

- 文科省や日本学術会議の大型プロジェクトに応募する会員向けのサポートレターを出すのかどうか。
- 日本物理学会は長い間出さないというスタンスであったが、出す場合の方針等をインフォーマルミーティングで議論したい。
- 日本物理学会からのサポートレターの発出方針(案)およびサポートレターの文案が説明された。
 1. 希望する会員は応募締切の十分前に提案書一式を提出。
 2. 理事会がプロジェクトの検討状況を確認(特に十分な関連する発表がなされているかどうか)。
 3. 会長は5名程度の理事に可否判断を依頼。

意見・質問

- 会員の間で意見が割れているようなプロジェクトでも出すということにならないか？ 出す・出さないをどうやって判断するのか？→一部でも反対しているものには出さない方針。状況を理事がきちんと判断する。
- これまで出さなかったのには理由があるのか？→物理学は分野が広くて、全体としてサポートするのは無理があると考えられていた。
- サポートレターの要請が出されたこと自体を他の学会員が知ることのできるシステムがあると良い。

(これまで出ていた意見)

- 他学会に関して、特に分野の絞られた学会では強い文面のレターになっている。
- すべての会員が議論に参加しなくても良いのか？→シンポジウム等で討論された計画なので問題ないと思われ。
- 今後のスケジュール→2024年度中を目処に検討。
- 応用物理学会のように分科会ごとのサポートレターは難しい。

5. 一般公演数の推移・概要提出率について (出村)

- 講演数の変化についてコメントがなされた。前年度と比べて全体的に少し減少(液体金属の学生の発表はやや増加)。
- 概要集の提出率は95.7%で物性全体の平均(95.8%)とほぼ同じ

6. 国際会議等案内

- 加藤勝先生(大阪公立大学)より第30回渦糸物理ワークショップ(静岡)のお知らせがなされた

期間: 2024年12月16日~12月18日

- 液体金属分野運営委員の坂口より、秋の2024年年会での開催が提案されているシンポジウムの紹介がなされた。

仮タイトル: 超秩序構造が開く物性物理学

領域6, 7, 10, 12合同

提案者: 木村耕治先生(名古屋工業大学)